

2011年8月2日 電話会議

# 2012年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: [tanakah@nichirei.co.jp](mailto:tanakah@nichirei.co.jp)

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

## 2012年3月期第1四半期連結業績と第2四半期・通期業績見込

単位:億円 (未満切捨て)	第1四半期		第2四半期(累計)			通期		
	実績	前年同期 間比増減	(E)	前年同期 間比増減	前回(E) 比増減	(E)	前年同期 間比増減	前回(E) 比増減
売上高	1,103	+18	2,178	-14	-	4,422	+43	-
営業利益	37	-6	54	-35	-	140	-26	-
経常利益	36	-6	47	-39	-	126	-35	-
当期純利益	24	+2	27	-24	-	70	+29	-
EPS(円)	8	+1	9	-8	-	23	+10	-

1. 売上高 注:(E)は前回5月10日に発表した見込から変更していない

①全体では2%の増収。加工食品はマーケットも好調な家庭用が大きく伸び6%の増収。水産、畜産は震災影響などによりそれぞれ7%、3%の減収。低温物流は国内外で売上高が増加し震災影響をカバーして4%の増収。不動産は賃貸不動産の契約更改により23%減収。

2. 営業利益

①全体は前年比6億円の減益だが、上期見通しに対しては加工食品、水産、畜産で想定線を上回り推移。

②加工食品は増収だが原料高などのコスト上昇を吸収しきれず2億円の減益。

③水産は減収に加え、産地価格上昇により2億円の減益。

④畜産は前期の口蹄疫等の影響がなくなり採算が改善して2億円の増益。

⑤低温物流は増収だが震災影響や新設冷蔵倉庫の減価償却費負担などにより3億円の減益。

⑥不動産は賃貸不動産の契約更改により3億円の減益。

3. 経常利益・当期純利益

①前期の資産除去債務に関する会計基準変更による特別損失7億円がなくなったことなどにより、当期純利益は2億円の増益。

4. 5月10日に発表した今期見通しは、原材料価格の動向や震災影響など通期にわたる不確定要素もあり変更していない。

5. 震災影響

	年計E		1Q実績		震災影響の見込との比較
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
水産	▲39億円	▲1億円	▲5億円	影響なし	震災後の需要減少は想定より軽微
畜産	▲16億円	▲1億円	影響なし	影響なし	東北の鶏肉生産の回復が早く想定より軽微
低温物流	▲25億円	▲3億円	▲9億円	▲2億円	概ね想定どおり

## 2012年3月期第1四半期セグメント別売上高・営業利益と第2四半期(累計)・通期業績見込

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	実績	第1四半期		第2四半期(累計)			通期			
		前年同期間比		(E)	前年同期間比		(E)	前年同期間比		
		増減	率		増減	率		増減	率	
売上高	加工食品	424	26	6%	820	11	1%	1,640	21	1%
	家庭用調理品	134	14	12%	240	7	3%	489	9	2%
	業務用調理品	194	9	5%	390	14	4%	797	26	3%
	健康価値	15	2	14%	30	3	12%	59	11	22%
	その他	81	0	0%	160	-13	-7%	295	-24	-8%
	水産	156	-12	-7%	307	-37	-11%	651	-17	-3%
	畜産	189	-6	-3%	381	-3	-1%	759	-24	-3%
	低温物流	360	14	4%	730	28	4%	1,486	92	7%
	物流ネットワーク	200	13	7%	399	15	4%	815	46	6%
	地域保管	112	4	3%	230	6	3%	460	23	5%
	海外	44	4	11%	93	13	17%	191	27	16%
	その他・共通	4	-7	-64%	8	-6	-44%	20	-4	-16%
	不動産	14	-4	-23%	25	-10	-29%	51	-15	-23%
	その他	15	-1	-7%	30	-0	-1%	63	1	1%
	全社または消去	-55	2	—	-115	-3	—	-228	-13	—
合計	1,104	18	2%	2,178	-14	-1%	4,422	44	1%	
営業利益	加工食品	10	-2	-13%	7	-18	-72%	36	-10	-22%
	水産	2	-2	-53%	2	-5	-70%	6	0	1%
	畜産	3	2	192%	3	3	525%	7	3	80%
	低温物流	16	-3	-16%	32	-7	-18%	70	-3	-4%
	物流ネットワーク	7	-1	-10%	12	-2	-16%	26	-0	-1%
	地域保管	9	-2	-20%	20	-3	-13%	43	0	1%
	海外	2	1	30%	4	0	4%	9	2	29%
	その他・共通	-2	-0	—	-4	-2	—	-8	-5	—
	不動産	7	-3	-31%	11	-8	-42%	21	-15	-41%
	その他	1	-0	-8%	0	-2	—	2	-2	-52%
	全社または消去	-1	1	—	-1	1	—	-2	-0	—
	合計	37	-7	-15%	54	-36	-40%	140	-27	-16%

注:(E)は5月10日に発表した見込から変更していない

## 1. 加工食品

- ①全体の売上高は前年比6%の増収。
- ②家庭用調理品はマーケット全体の伸長を上回り前年比12%の大幅増収。今春に投入した「ミニフライドチキン」などのチキン加工品が全体を牽引したほか調理野菜、米飯類も好調。
- ③業務用調理品は前年比5%の増収。震災で外食は厳しいが量販店・CVS等で中食ニーズが高まりチキン加工品やコロッケが大きく伸長。
- ④健康価値はアセロラ原料販売が順調で前年比14%の増収。
- ⑤営業利益は、原材料・仕入価格の上昇は想定を下回ったが、増収効果や生産性改善、固定費削減などの増益要因で吸収しきれず前年比2億円の減益。GFNの稼働は想定どおり推移。1Qの営業利益は想定を上回るが、当初見込は変更しない。

## 2. 水産

- ①売上高は前年比7%の減収。震災影響に加え、魚卵やえびなどの供給量の減少により減収。
- ②営業利益は前年比2億円の減益。減収の影響に加え、えびやたこの産地価格の上昇が響く。

## 3. 畜産

- ①売上高は震災影響による供給不足から国産チキンの取扱が減少、輸入ポークも採算性重視で取扱を絞った結果、全体として前年比3%の減収。
- ②営業利益は国産チキン、ポークを中心に相場の好転と採算性重視の販売により、前年比2億円の増益。前年の口蹄疫などの悪材料がなくなったことも奏功。

## 4. 低温物流

- ①全体の売上高は前年比4%の増収、営業利益は3億円減益。海外と物流ネットワークが堅調に推移。地域保管では震災の影響に加え新設冷蔵倉庫が立上げ半ばであり在庫率は前年を下回る。
- ②物流ネットワーク: 売上高は前年比7%増収。新設TC(通過型センター)の増収が寄与。営業利益は震災による配送コスト増加や被災センターの稼働停止による減益を増収効果で吸収しきれず1億円の減益。
- ③地域保管: 売上高は震災影響はあるものの前期に稼働した新設倉庫の集荷や猛暑・節電対応の在庫積増しもあって前年比3%の増収。営業利益は新設倉庫の減価償却費負担や震災後の貨物の倉移しなどによるコスト増加により2億円の減益。
- ④海外: 売上高は11%の増収、営業利益は1億円の増益。ユーロ安の影響があるが仏のゴドフロア社の買収効果や果汁の取扱が引き続き好調で現地通貨ベースでは大幅な増収増益。

## 2012年3月期第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

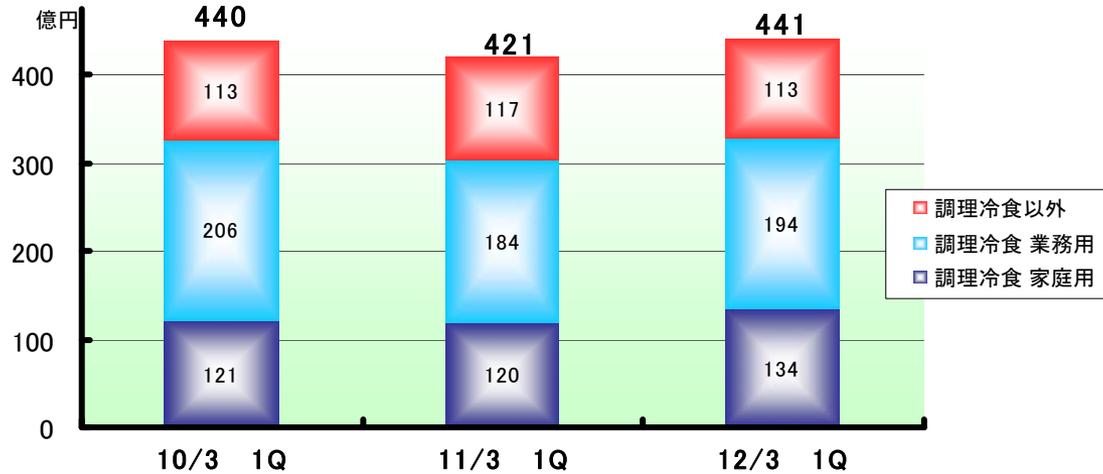
科目	11/6	11/3	増減	
<b>〔資産の部〕</b>				
流動資産	1,021	1,031	-9	①
固定資産	1,804	1,813	-8	
資産の部合計	2,826	2,845	-18	
<b>〔負債・資本の部〕</b>				
流動負債	1,083	1,103	-19	②
固定負債	556	564	-7	
負債の部合計	1,640	1,668	-27	
純資産の部	1,185	1,177	+8	
(うち株主資本)	1,151	1,150	+1	
有利子負債	915	969	-53	②
(うちリース債務除く)	676	724	-48	
<b>科目</b>	<b>11/6</b>	<b>10/6</b>	<b>増減</b>	
設備投資額	19	35	-16	
(うちリース資産除く)	14	32	-17	
減価償却費	36	33	+2	
(うちリース資産除く)	27	24	+2	

### 【主な要因】

- ① 季節的要因により売上債権が34億円、たな卸資産が12億円増加。一方、現金及び預金は、震災により一時的に手元流動性を高めていたが平常時に戻したことで64億円減少。
- ② その他流動負債、買掛金がそれぞれ28億円、15億円増加。一方、手元資金の取崩などで短期借入金で47億円減少。

## 参考データ

### 冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



### 冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

一般保管入庫数量:千屯

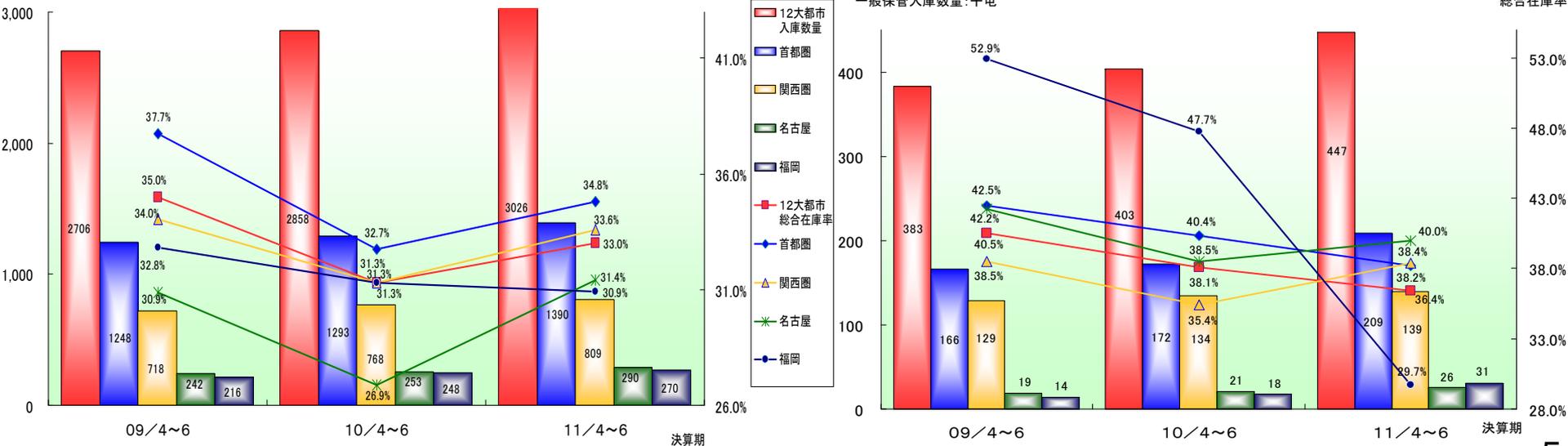
業界の冷蔵倉庫稼働状況

総合在庫率

一般保管入庫数量:千屯

ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況

総合在庫率



\* 札幌石狩地区、名古屋尾北地区を含む

## 当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果  
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。